

病児保育室「あんず」のチョットアノネ

No. 87 (2024. 8. 20.)

テーマ：マイコプラズマ感染症

マイコプラズマ感染症の流行

肺炎マイコプラズマという病原体により引き起こされる病気です。マイコプラズマは細菌の1/10程度の小さい微生物です。飛沫感染により2～3週間の潜伏期間の後に発病します。家族感染や学校などの集団で発生することが多いです。風邪と同じような症状の病気ですが肺炎を起こすことが多い病気です(10歳～30歳の肺炎の70%)。流行は4年ごとの周期で繰り返されていました(オリンピック風邪と言われた)が、現在は季節性も流行周期もはっきりしなくなっています。新型コロナウイルス感染症が始まってからほとんど流行は無くなりましたが最近日本国内で患者さんの増加がみられており注意が必要です。

マイコプラズマ感染症の症状・診断

咳、発熱、頭痛などの風邪症状でゆっくり進行しますが、咳は徐々に激しくなり、特に早朝や夜間に寝れないほど咳き込みます。しつこい咳が3～4週間持続する場合もあり、肺炎を起こすことが多いです(マイコプラズマ肺炎)。重症例では呼吸困難になることもあります。合併症として頻度は低いですが、中耳炎や鼓膜炎がみられ、時に胸膜炎(胸に水が貯まる)がみられることがあります。熱が収まったあとで顔や四肢に発疹がでることもあります。発疹では多型滲出性紅斑という、5～20mm大の紅斑がみられることがあります。診断は激しい咳と発熱の症状と胸部レントゲンでの肺炎陰影で疑われます。血液検査では白血球数はあまり増加しませんがCRPという検査で陽性が認められます。確定診断はマイコプラズマ抗原測定迅速試験やマイコプラズマ核酸検出(LAMP法)を実施します。



マイコプラズマ肺炎



多型滲出性紅斑

マイコプラズマ感染症の治療・予防

マイコプラズマに有効な抗菌薬は3種類あります。マクロライド系(エルスロマイシンやクラリスロマイシン等)、テトラシクリン系(ミノサイクリン等)、ニューキノロン系(トスフロキサシン等)です。ただし、テトラサイクリン系の抗菌薬は歯牙の着色をきたすため8歳以上にしか使用されません。また、マクロライド系の抗菌薬に対する耐性菌も出てきており治療に抵抗する症例もあります。ワクチンはありませんので、予防法としては飛沫感染を防ぐ一般的な対応(患者さんに近づかない、咳エチケットをする、マスクを着用する、手洗いをする等)をします。

登校・登園の目安

症状が改善し、全身状態が良い場合は登校・登園可能です。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第1位	新型コロナ、	第2位	手足口病、	第3位	感染性胃腸炎
亶理郡内では：第1位	新型コロナ、	第2位	手足口病、	第3位	感染性胃腸炎

大友医院病児保育室「あんず」より

梅雨があげ猛暑が続いております。暑さのために熱中症になったり、体調を崩さないように注意しましょう。新型コロナウイルス感染症と手足口病が県内で大流行していますし、亶理郡内ではまだ流行はありませんが日本国内でマイコプラズマ感染症の流行の兆しがあり油断できません。

病児保育室「あんず」専用電話 0223-35-6455

